

[別紙①]

第3学年 社会科 学習指導略案

- 1 主 題 北朝鮮による拉致問題は解決がなぜ難しいのか考え、自分にできることを考えよう。
- 2 資 料 名 アニメ「めぐみ」(拉致問題対策本部)
- 3 ね ら い 「拉致問題」が人権課題の一つであることを理解させ、その重大性を認識させるとともに、人権を尊重し、人権課題の解決に向けて一人ひとりが関心をもち、考えることの大切さを認識させる。
冷戦後の国際社会における、民族や宗教を巡る対立、我が国と近隣諸国との間の領土をめぐる問題、「拉致問題」など様々な課題について理解する。
国際社会(近隣諸国)における課題の解決に向けて、国際協調の取組や、多くの人々が関心をもち、国家の利害に左右されない人権尊重の精神に基づいた人と人との関係を築くことが大切であるということに気付かせる。
- 4 人権教育の内容 人権の擁護とその活動についての学習 2-(2)-イ

5 展 開

学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
1 日本を取りまく国際情勢と北朝鮮との関係について確認する。	○ 日本と対立している国にはどのような国があったでしょう。 ・ ロシア(北方領土) 韓国(竹島) 中国(尖閣諸島) 北朝鮮(ミサイル) など、社会問題となっている国々。	○ 日本を取り巻く国際情勢については既習内容なので、適宜ペアトークなどの活動を取り入れ確認させる。 ○ 北朝鮮については「ミサイル問題」について指摘されることが多いと考えられるので、北朝鮮とは拉致問題という別の課題があることをおさえる。 ○ ニュース動画を視聴させ、拉致問題が現在進行形で続いている問題であることに気付かせる。
2 拉致問題について知る。	○ 拉致問題は今も続く人権問題であることを知る。 ・ 拉致被害者の数が多いことに驚く。 ・ 1970年頃から発生している問題が未だに続いていることを課題と感じる。 ・ 1990年代から2000年代に拉致問題が大きく動いた事柄について知る一方で、未解決になっている点も多く残っていることに気付く。 ・ 拉致被害者の帰国や消息について、解決すべき課題があることに気付く。	○ 拉致問題の基本的な事柄について学ばせる。 ○ 拉致問題対策本部等の公的機関の情報をもとに内容を構成する。

<p>3 アニメ「めぐみ」を視聴する。</p>	<p>アニメ「めぐみ」を視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 拉致問題の解決を難しくしているものは何かを考えながら視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と同じくらいの年でめぐみさんが拉致されたことを知り、「自分の身に同じことが起こったら」と自分事として捉える。 ・ 外交的な問題、透明性が低いという問題などがあることに気付く。 ・ 拉致問題が解決されていない問題であり、風化させてはいけない課題であると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ メモを取りながら視聴させる。 ○ 適宜動画に映っている場面の時代背景などを説明する。
<p>4 拉致問題の解決がなぜ難しいのか考える。</p>	<p>拉致問題の解決がなぜ難しいのか考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2002年の拉致被害者帰国以降も、拉致問題が解決していない理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 政治体制の違いがあるから。 ・ 北朝鮮についての情報が少ないから。 ・ 日本国民の興味が少ないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会主義と資本主義の違いなど、北朝鮮と日本の政治体制の違いに着目をさせる。 ○ 「めぐみ」の作品中にも描写のある、国民の理解を得られていない現状について気付かせる。 ○ グループ討議を行うことで、多様な意見があることに気付かせる。
<p>5 まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ この授業で学んだこと感じたことは何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 拉致問題は未だ解決していない人権問題だと思った。 ・ 「家族と暮らす」という当たり前が奪われることはあってはならない。 ・ 拉致問題を知っている人が減れば、解決が難しくなる。 ・ 一人ひとりが関心を寄せ続け、伝え合うことが大切だと感じる。 ・ 拉致問題に関係が無い北朝鮮の一般の人々に対して悪感情を向けないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この授業を受けるまでに、北朝鮮による拉致問題について知っていたかどうか問いかける。 ○ 拉致問題の解決には様々な障壁があり、容易に解決できるものではないことに気付かせる。 ○ 拉致問題について考え続け、一人ひとりができることについて考えさせる。 ○ 拉致事件は北朝鮮政府が行ったことであり、一般の北朝鮮国民に対して悪感情を抱くことのないように伝える。